

臨床薬理学	2年・後期	1単位	教授 堀越正美
科目カテゴリー	看護の対象の理解	科目ナンバリング	33210402

1. 授業のねらい・概要

薬理学は「薬」に関係することを総合的に学ぶ学問であり、「薬」を正しく用いて副作用を少なく、病気を治療することにある。医師や薬剤師だけでなく、患者の一番身近にいて看護業務に携わる看護師が「薬」についての的確で広範な知識を持ち、理解することを目的とする。

2. 学修の到達目標

1. 薬理学の概要を把握する。
2. 薬（薬物）とは何か？ 薬物療法の基本を学び理解する。
3. 薬は生体内でどう作用するのか、その作用様式の原理を学び理解する。
4. 疾患別薬物治療を学び理解する。

3. 授業の進め方

基本的には教科書を中心にして講義を進める。必要に応じて参考資料のプリントを配布する。

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	生物システムの原理 序章 薬の基礎知識	講義・ 小テスト	予習：テキストの相当する章を読み、数ページにまとめ、覚えておく。まとめたものはコピーを提出する。 復習：講義を行った部分を復習する。	堀越正美
2	第1章 心と神経系に作用する薬	講義・ 小テスト	予習：テキストの相当する章を読み、数ページにまとめ、覚えておく。まとめたものはコピーを提出する。 復習：講義を行った部分を復習する。	堀越
3	第2章 心臓・血管系に作用する薬 第3章 呼吸系に作用する薬	講義・ 小テスト	予習：テキストの相当する章を読み、数ページにまとめ、覚えておく。まとめたものはコピーを提出する。 復習：講義を行った部分を復習する。	堀越
4	第4章 消化器系に作用する薬	講義・ 小テスト	予習：テキストの相当する章を読み、数ページにまとめ、覚えておく。まとめたものはコピーを提出する。 復習：講義を行った部分を復習する。	堀越
5	第5章 内分泌・代謝系に作用する薬 第6章 腎・泌尿器系に作用する薬	講義・ 小テスト	予習：テキストの相当する章を読み、数ページにまとめ、覚えておく。まとめたものはコピーを提出する。 復習：講義を行った部分を復習する。	堀越
6	第7章 血液・造血器系に作用する薬 第8章 骨、炎症と免疫系に作用する薬	講義・ 小テスト	予習：テキストの相当する章を読み、数ページにまとめ、覚えておく。まとめたものはコピーを提出する。 復習：講義を行った部分を復習する。	堀越
7	第9章 眼に作用する薬 第10章 感染症の治療薬	講義・ 小テスト	予習：テキストの相当する章を読み、数ページにまとめ、覚えておく。まとめたものはコピーを提出する。 復習：講義を行った部分を復習する。	堀越
8	第11章 悪性腫瘍（がん）に作用する薬と試験対策	講義・ 小テスト	予習：テキストの相当する章を読み、数ページにまとめ、覚えておく。まとめたものはコピーを提出する。 復習：講義を行った部分を復習する。	堀越

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上のコマ数出席者）40%、出席 20%、予習分のまとめの提出内容 20%、小テスト 20%を判断基準にして評価する。

6. テキスト・参考文献

教科書：「初めの一步は絵で学ぶ 薬理学 第2版 疾患と薬の作用がひと目でわかる」 じほう 2019
参考図書：「シンプル薬理学(改訂第6版)」 南江堂 2020

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

授業前に必ず一度は学習予定の範囲を読んでおく。復習はその日のうちに理解することを目的に行う。

8. 受講上の留意事項

黒板に書かないことでも重要であると話した内容や自分で大切だと思ったことはノートに必ず書く。相手の話を聞いて内容を把握し、要点をまとめることは看護師として勤務する時に必要なことなので、今から心がける。

9. 課題に対するフィードバックの方法

当該授業科目の内容をマスターするために、ほとんどの毎回の授業で問題を配布する。家で問題を解き（黒で書く）、分からないところを赤で色付けしておく。配布した問題を今後も長く参考として利用できるようにする。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合、進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

該当する。本授業は大学学部での授業及び科学者としての広く深い経験を活かした上で行う。